Ⅵ　術後非洗浄式

1）システム図（図25）

図25 システム図

2）用意するもの

・自己血回収装置
・輸血セット
・ドレーンチューブ

3）回収前の準備（図26）

(1) 取扱説明書に従い、自己血回収装置を装着する。
(2) 無菌的にドレーンチューブおよび術後吸引ラインの袋を開け、滅菌紙に包まれた回路を術野へ渡す。
(3) 術後吸引ラインを術野から受け取り、無菌的にリザーバーへ接続する。
(4) メーカー推奨に従い、リザーバーの吸引圧を設定する。

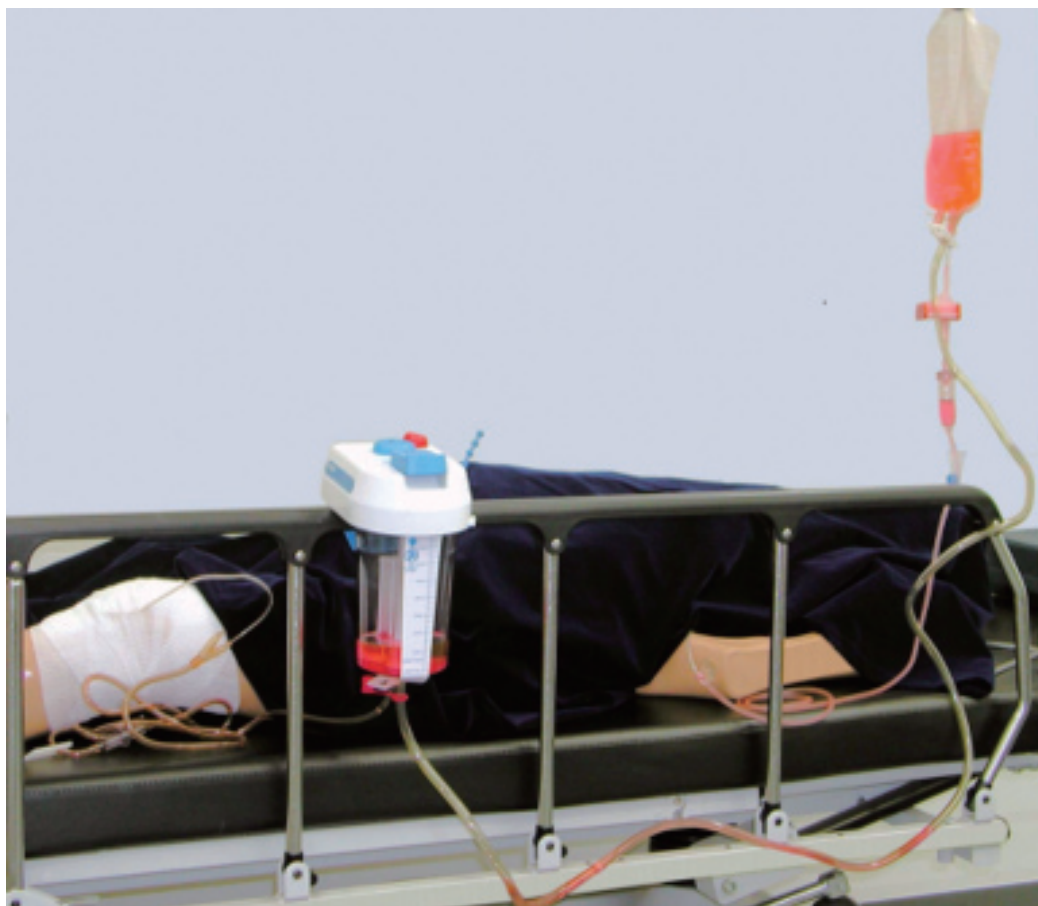



図26 回収前の準備（全体図）

4）回収処理の手順（図27、図28、図29）

（1）創部が完全に縫合されたことを確認し、ドレーンチューブと術後吸引ラインを接続後、取扱説明書に従って回収処理を行う。

(2）当該患者氏名などを返血バッグに記載する。

ご使用の手引き＜手術室＞

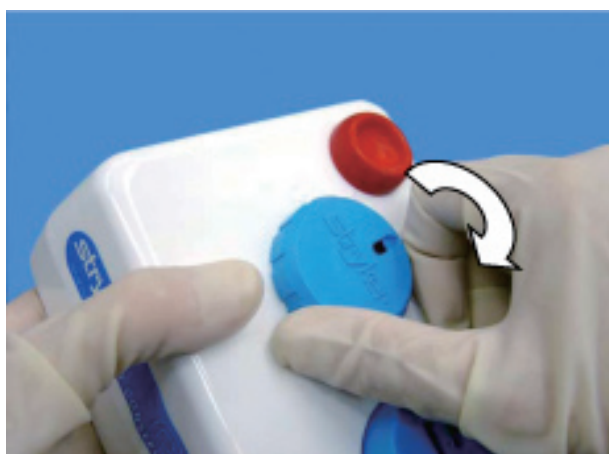
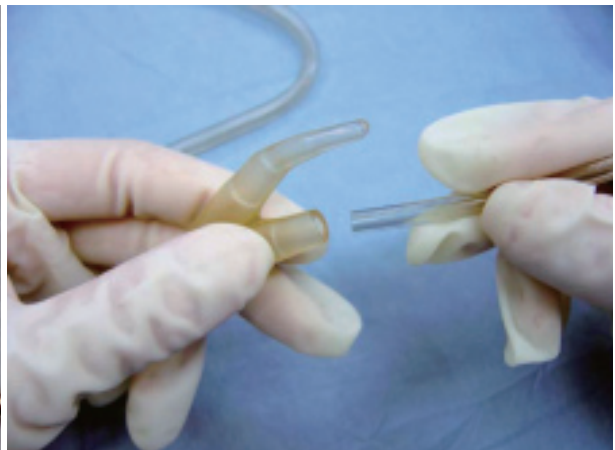
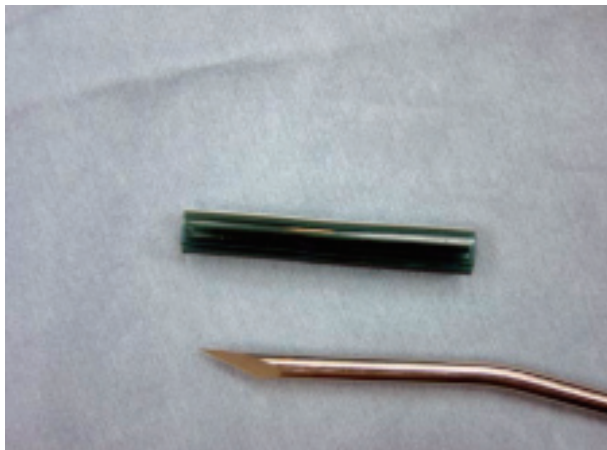
1. 動作前チェック

ご使用前にかならず作動チェックを行ってください。チェック後は陰圧ダイアルをOFFにし、再度レバーを押し下げ、陰圧を解除してください

図27 回収処理の手順1

ご使用の手引き<手術室>

2. ドレーンチューブ挿入

ドレーンチューブ挿入を挿入します。ドレーンチューブとＹコネクタを接続します。

※駆血帯を使用した手術の場合は、接続の前に駆血帯を外した後のドレナージより、最初の約50ccを抜き取り廃棄すること。

図28 回収処理の手順2

ご使用の手引き<手術室>

3. 吸引開始

医師から指示があれば、吸引圧を設定し、吸引を開始してください。（最初の10分間は陰圧ダイアルをlow【I】に設定し、10分後に適切な陰圧レベルに設定してください）

リザーバーは必ず垂直に保ってください。

図29 回収処理の手順3

4）返血の手順（図30、図31、図32、図33、図34）

（1）回収処理が完了したら、取扱説明書の手順に従って、輸血の準備をする。

（2）各医療施設の標準手順に従って輸血する。

返血の手引き<回復室／病室>

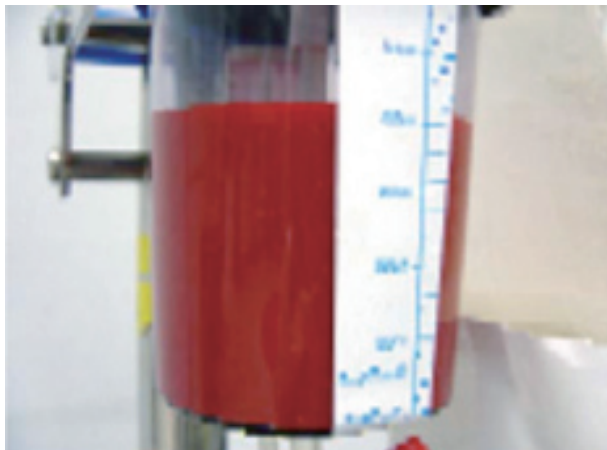
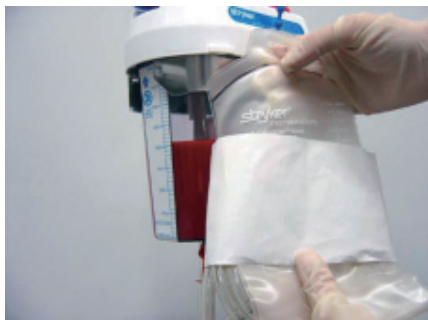
1. 血液の確認

出血量を確認します。リザーバー内の血液の脂肪層が分離していること、多量の気泡がないことを確認します。

図30 返血の手順1

返血の手引き<回復室／病室>

2. 血液を返血バッグへ

返血作業を行う時には、血液暴露への予防対策として必ず手袋を着用してください。返血バッグへ血液を送ります。操作中はリザーバータンクをゆすったり振ったりしないでください。

リザーバータンクには、必ず上層の70ccが残ります。

図31 返血の手順2

返血の手引き<回復室／病室>

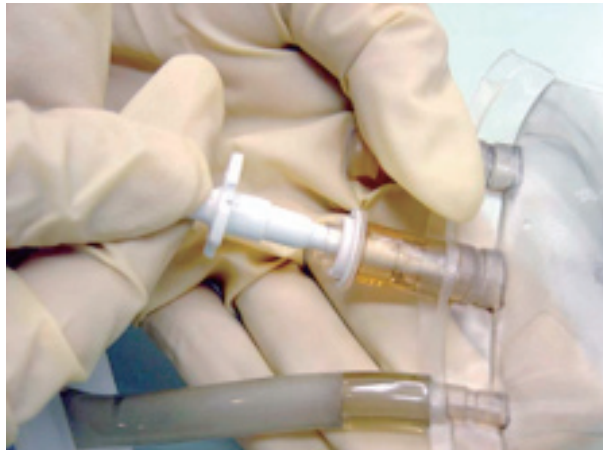
3. 40μm.マイクロアグリゲートフィルターの挿入

40 μm.マイクロアグリゲートフィルターのスパイクを水平に差し込みます。
机の上などの場所に返血バックをおいて行ってください。
40 μm.マイクロアグリゲートフィルターのスパイクを差し込む時は、返血バックを突き破らないように、ご注意ください。

図32 返血の手順3

返血の手引き<回復室／病室>

4. 40μm.マイクロアグリゲートフィルター への充填方法

例）ポール輸血フィルター SQ40s-KJS

血液バッグを逆さにして一方の手に持ち、もう一方の手で流量調節クランプを緩めます。この時、血液バッグ、フィルター、点滴筒が垂直に一直線になるように持ってください。
血液バッグを軽く握るようにして血液製剤をフィルターに充填する。
点滴筒が適量まで満たされたら、流量調節クランプを閉じます。
血液バッグをガートル台にかけて、フィルターセットの残りの部分を流量調節クランプを開けて充填します。

ポール輸血フィルター SQ40s添付文書新様式第1版
操作方法又は使用方法等

図33 返血の手順4

返血の手引き<回復室／病室>

5. 輸血スタート

図34 返血の手順5

（図26～34は日本ストライカー株式会社提供）

5）回収処理後の処置

（1）回収処理が完了したら、取扱説明書の手順に従って、使用したディスポーザブルなどを取り外す。

(2) 取り外したディスポーザブルなどを院内の医療用廃棄物処理手順に従って廃棄する。

6）実施上の留意点

（1）血液の吸引は通常使用しているドレナージの圧力で行う。

(2) ドレーンチューブ留置中は適切にドレナージされていることを確認する。

(3) 遊離ヘモグロビンが除去されないので、低ハプトグロビン血症や腎機能不全の患者では使用しない。※2